

石川幸一先生のご退任によせて

遊 川 和 郎
(アジア研究所長)

2018年3月までアジア研究所長を6年間務められた石川幸一先生が定年を迎えられるにあたり、関係者を代表して心から感謝の気持ちをお伝えしたい。

石川先生は東京外国語大学外国語学部インドパキスタン語学科を卒業後、32年にわたって政府機関である日本貿易振興機構（JETRO）で東南アジアへの日本の投資や東南アジアから日本への輸出促進、経済調査などの業務に従事された。その間、ジャカルタ、香港での現地駐在やJETRO主任調査研究員、国際経済課長、国際貿易投資研究所研究主幹などの重責を歴任された。研究者であるとともに着々と実務をこなされる組織人としての一面を持っておられるのはこうした経歴にもよるものだろう。

2005年、56歳の時に亜細亜大学アジア研究所に籍を移して本格的な研究の道に進まれる。石川先生のご専門領域はASEANを中心とした東アジア地域の直接投資動向、国際分業から次第に地域統合へと昇華され、近年では環太平洋パートナーシップ協定（TPP）や東アジア地域包括的経済連携（RCEP）などメガFTAと呼ばれる多国間の自由貿易協定について、その意義や効果を力説された。JETRO時代に培われたであろう現場に根差した調査研究と統計データやファクト（事実）に基づく手堅い分析は極めて説得的で安定感があり、学会をはじめ学外各種研究会や講演、原稿依頼も引っ張りだこだった。本研究所においても斯界有数の研究者による研究プロジェクトを組織され、次々と質の高い成果をまとめ上げられた。これまでに執筆された著書、論文は約160本（うち著書が約90本）を数える。一つ一つの研究成果をタイミング逃さず世に発信された結果だろう。

本学では、「アジア経済統合論」「東南アジア研究」などの学部講義科目の他、大学院では留学生を中心とした大学院生に丁寧な論文指導を施された。「アジア夢カレッジ（中国への留学・インターンシッププログラム）」でも、学生の立場に立った懇切な指導とそのお人柄で卒業後もなお多くの学生に慕われている。

大学運営においては、アジア夢カレッジ運営委員長や国際交流委員長、留学生別科長、アジア研究所長などの要職を誠実なお人柄と持ち前の実務能力で円滑に取り仕切られた。千葉県流山市にお住いのため通勤には片道2時間以上を要し、研究、教育に加えこうした各種大学運営と多岐にわたる活動に携われ、相当にご多忙な日々を過ごされたであろうことは想像に難くない。そんな中、早朝出勤や深夜帰宅になってしまう仕事もいつも柔和な笑顔で快く引き受けてくださり、内外の懇親会ではお好きなビールをマイペースで嗜みながら、会話の中心で盛り上げてくださった。ご家庭では愛猫とたわむれお孫さんのお世話もこなす好々爺の一面もお持ちだった。

亜細亜大学での14年間のご活動に心からの感謝の気持ちを捧げ、ご事情が許せば引き続きアジア研究所を見守りアドバイスもいただければと切に願う次第である。益々のご健勝をお祈り申し上げます。

2018年12月